

工事施工の問題点及び解決

株式会社 町 組

鍋島 五和次

工事名 平成20年度 駿河海岸 田尻養浜災害復旧工事

工期 平成20年 11月20日～平成21年3月30日

請負金額 ¥88, 515, 000-

発注者 国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所海岸課

工事内容 突堤・人口岬

養浜工 養浜工(採取土)V=33, 000m³

当工事は、焼津田尻海岸の侵食対策工事として発注され、上記内容のとおり
工種は、養浜作業だけで、大井川河口の堆積土砂を、バージ船にて採取、9km
離れた、田尻海岸まで運搬・養浜する作業です。



いくつかの検討事項はありましたが、下記2点について記載をします。

①採取土は設計で、できる限り陸側の砂利を採取する様になっている。

実際、測量・調査段階で陸側に近づかないと砂利がない。(沖に行くほど砂)

②工期は3月30日までであるが、シラス漁は21日より始まりトラブルを考えると19日までには完成をしたい。

①について

調査では、潜水士を頼み、水中カメラ、簡易音響測深器等を利用し、実際の海中の状況を探り、結果陸側に砂利が多いことが判明した。



潜水士



測量

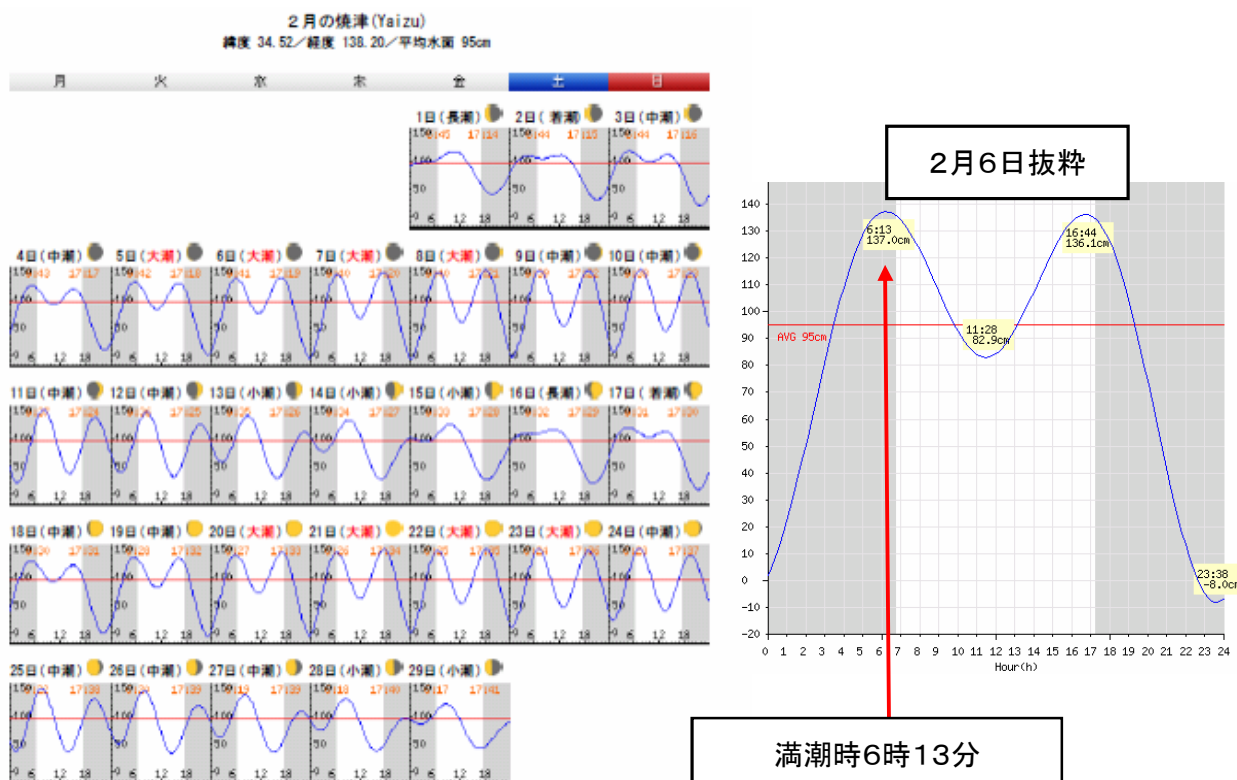


水中写真

月別の潮位をインターネットで検索。満潮時間を確認し出港 採取するようにした。

(陸側に近づける様、満潮時に採取時間を合わせる。)

結果、思うような砂利を採取 養浜出来た。



machi-gumi

②について

3月初旬に完成の予定で進んではいたが2月中旬から下旬にかけて海象状況が悪かった為、3月21日までの完成は、今後過去3年間の海象状況から見ても不可能と判断、会社と相談し1船追加で2船での対応を行なった。

結果、3月18日に完成し、シラス漁には影響がなく、苦情もなく終わることが出来た。



最後に

今回の工事は出来形管理、品質管理等なく採取土の検収数量の確認だけであった。工事内容は単純であるが、これほど気象、海象状況に悩まされた工事は、今まで経験がなかったように感ずる。海上養浜は、我社では初めての経験、船を使つての作業に、かなり興味を持つようになった。ただ近年の異常気象によって過去のデータが、参考にならなくなってきていることが、今後気掛りである。